

①赤血球って何ですか？

赤血球は血液中を流れている小さな円盤状の細胞です。血液1滴中に何百万もの赤血球があり、体のすみずみまではりめぐらされている血管の中を流れて体中の細胞に酸素を運びます。体の細胞は、赤血球から受け取った酸素を使って生きていますので、赤血球が足りなくなると弱ってしまいます。赤血球の役割はとても大切なのです。さて、赤血球の中には、酸素としっかり結びつくことができるヘモグロビン(Hb)という色素蛋白質が入っています。血液が赤いのはヘモグロビンが赤色をしているせいです。ヘモグロビンは、全身の組織に酸素を上手に手渡していきます。たとえばいうと、赤血球は、酸素を配達するトラックのようなものです。図に示しましたように、赤血球トラックの中にはヘモグロビンという箱があって酸素は



赤血球の検査(RBC, Hb, Ht)について

専門医が教える **よく受ける検査** の意味 **2**



日本臨床検査専門医会
田部 陽子

このヘモグロビンボックスに入れて運ばれます。

②RBC、Hb、Htを調べて何がわかるのですか？

RBCは血液中の赤血球の数、Hbは赤血球の中にあるヘモグロビンの量、Ht(ヘマトクリット)は赤血球が血液中でどれだけの割合を占めているか、を示しています。これら3つを調べると、貧血になっていないか、あるいは逆に血液が濃すぎではないか、ということがわかります。先ほどのトラックのたとえでいうと、RBC、Hb、Htが正常であれば、血液中の赤血球はちょうど良い具合に酸素を配達できます。しかし、トラック(RBC)の数が少なかったり、小さすぎたりすると十分な酸素を運べなくなりますし、トラックが多すぎると渋滞してうまく流れなくなってしまいます。

③赤血球の異常でどんな症状がでるのでしょうか？

赤血球数やヘモグロビンが少なくなる貧血では、体の組織が酸欠状態になりますので、疲れやすくなったり、めまいや頭痛が起こることがあります。また、ちょっとした運動や階段の上がり降りで動悸や息切れを感じるようになります。動悸は、体が酸欠を解消しようとして、心臓の鼓動を速めてより多くの赤血球を体中へ送り込もうとするためにおこるものです。息切れは、足りない酸素を少しでも多く体の中に入れようとして呼吸を速くするためにおこります。一方、赤血球数が多くなりすぎる多血症では、血液が濃くなりすぎることによって流れが悪くなり、めまいや頭痛が起こったり、顔が赤くほてったりすることがあります。しかし、貧血も多血症もゆっくりと進行することが多いので、体がその状態に慣れてしまっって、自覚症状がほとんどなく、健康診断などで偶然に見つかることも多いものです。血液検査でRBC、Hb、Ht、の異常があった場合には、より詳しい検査で原因を調べ、正確な診断をもとに対応することが大切です。